

日本キリスト教団 清水ヶ丘教会

まじふ

Vol. 13 No. 2
2016. 8. 7

「せいねん礼拝」 牧師 片平 貴宣

主の御名を賛美いたします。清水ヶ丘教会において二〇一六年五月より新たに「せいねん礼拝」が行われています。まず神さまが私たちの教会に新しい礼拝を与えて下さったことを感謝したいと思います。すでに「せいねん礼拝」は二度行われておりますが、いづれにおいても青年の集いのメンバーが主体的に奉仕をして下さり、恵まれた礼拝が行われています。司会や奏楽の奉仕はもちろん、「証し」もして下さっています。五月は白鳥義也兄、六月は本間南姉がご奉仕をして下さいました。救いや教会に導かれた出来事や、生活の中で起こり得る身近な出来事を信仰者としてどう受け止めていくのか、率直な生の声を語ってくれました。

また、讚美も特色の一つです。主にバンド演奏によるワーシップソングが献げられています。この讚美のために事前に奉仕者が集まり、練習を経てせいねん礼拝に臨んでいます。そのような技術面を磨くと共に、讚美奉仕者としての心構えの学びも、仲井恵姉の導きで行われています。歌詞もプロジェクトで映し出し、みんなで前を向いて讚美をしています。六月の礼拝においてはカナダCCCメンバー

が加わって下さり、特別讚美も献げて下さいました。メッセージは二回とも私が担当をいたしました。青年向けにビジュアル的な要素や、オーディオも取り入れた形のメッセージをいたしました。またメッセージの題には元ネタがあり、メッセージ中では元となった作品も取り上げつつ語らせて頂きました。そのようにして行われました「せいねん礼拝」ですが、今まで行ったことを踏まえつつ、青年の集いにおいてどのような形で進めていくのがふさわしいか、今後話し合っていくことになっていきます。

これまで二回の「せいねん礼拝」は第Ⅰ礼拝と同じ時間帯に教育館で行いましたが、第Ⅱ礼拝に青年の姿がないことに、寂しさを覚えておられる方もあるでしょう。私も第Ⅱ礼拝に出席できない事に同じ思いを抱かないわけではありません。けれども、同じ主を礼拝する礼拝です。清水ヶ丘教会において同時に二つの礼拝をもつて主を礼拝できるのは喜びであり、さらに豊かに主を礼拝できることの表れであると思っております。

せいねん礼拝を通して、教会に集っている青年達が自分の友だちを気軽に誘えるような、そんな礼拝や交わりを作ることが出来れば、と願っています。せいねん礼拝を入り口として行く行くは教会へ連なる方が起こされるのが、目指すビジョンの一つです。そして、青年達が主体的に礼拝に関わる場がある事は、教会の将来のための大切な課題です。現在の教会においても信仰の継承が大きな課題になっています。信仰を継承するために大切なのは「奉仕の場がある」と言うことでありましょう。

「信仰継承」とは言い換えれば、「人(信仰者)を育てる」と言うことになるでしょう。人を育てるには時間がかかります。今日明日ですぐ出来ることではありません。一〇年、二〇年、あるいは五〇年、六〇年との長いスパンで取り組んでいかななくてはならないことです。

そのような先を見据えたときに、今できることは何なのかと考えるならば、次世代への伝道であると共に次世代の奉仕者の育成でありましょう。そのためせいねん礼拝はよき訓練の場ともなっています。最後をお願いしたいことは、ぜひ「せいねん礼拝」を覚えて教会員お一人お一人にお祈りをして頂きたい、と言うことです。同じ教会において行われております礼拝の一つでありますから、「自分は青年ではないから関係ない」と思わずに、祈って支えて頂きたいと思えます。

教会として若い力と時間と場所をお献げして、教会として青年のための宣教を行い、教会として奉仕者を育てている、とお一人お一人に覚えて頂き、お祈りくださればと思います。

また、どうぞ機会がありましたら実際にせいねん礼拝に集っていただき、青年達が感謝と喜びをもって主を讚美し、礼拝を守っている様子を共に体験していただいても良いと思います。

神さまは「見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。」(イザヤ四三・一九)と約束して下さっています。まさに今、神さまによる新しい業を私たちは見せられています。この働きがなお成長し、ますます豊かな実を結ぶよう、覚えてお祈りください。